

備える。学ぶ。



2024年度版

防災・減災教育プログラム 研修のご案内

講師依頼受付中!

過去の災害から学び、
人と人が支えあえる社会を

実践を活かした研修メニュー

ピースボート災害支援センター(PBV)は、被災地での災害支援や災害に強い社会作りに取り組む非営利団体です。これまで海外では29ヶ国、国内では78地域の被災地で、延べ11万人の災害ボランティアと共に、災害支援を行ってきました。

現地で活動する中でこんな言葉をよく耳にします。

「まさか私が災害に遭うなんて。ちゃんと備えておけばよかった。」

「実際に災害が起きると、マニュアル通りに動けなかった。もっと訓練しておけば良かった。」

災害によって悲しむ人が増えるのか、減るのか、それは事前の備え次第です。

そんな思いからPBVは、災害支援の経験やノウハウを活かして、講師派遣という形で防災減災の普及に努めてきました。

研修メニューは、すべて被災地支援の実践から生まれたものです。

基礎知識から実践演習まで、事例をふまえ、受講対象に合わせたプログラム提供が可能です。

防災減災の研修をお考えの際は、ぜひご検討ください。

避難所の運営研修 ▶P4へ

避難生活の実態や事例を交えて、開所から閉所までの避難所運営を体系的に学ぶ

災害VC運営者養成研修 ▶P6へ

災害VCの支援体制を構築する上で、運営者に必要な心構えや共通認識を深める

災害ボランティア養成研修 ▶P7へ

初めての災害ボランティアから、ボランティアをコーディネートする人材までを育成する

防災研修 ▶P8へ

災害から自分や家族を、そして地域を守るための対応や備えを様々な角度から学ぶ

その他テーマ別講演 ▶P10へ

様々な被災地支援活動経験やノウハウを、希望のテーマに沿ってお伝えする

※研修メニューによっては、オンラインでの対応も行っております。

全国の社会福祉協議会のご担当者様へ

災害時には、地域を良く知る、災害ボランティアセンター(災害VC)の運営を担う社会福祉協議会(社協)の役割が大きくなります。PBVの災害支援でも、多くの場合は被災地の社協が現地パートナーです。事前の関係づくりの意味も込め、2017年度～2019年度に全社協主催災害VC運営者研修の講師・企画委員を務めました。ご希望に合わせて、全国の各市区町村に講師を派遣しての研修も行っています。災害VC運営者や災害ボランティアの養成研修等、お気軽にご相談ください。

メッセージ

住民やボランティアの力を被災者とともに、一緒になって地域の復興に取り組む災害VCの役割は、まさに私たち社会福祉協議会の理念にも通じるものです。ただ、災害対応を専門とする組織ではないため、十分なノウハウを持った職員の人材が限られています。PBVをはじめとする様々なNPOとも協力し、平時の研修や訓練、関係者での情報・意見交換などを通じて、引き続き「被災者中心」「地元主体」「協働」の三原則を実践できる災害VCの普及に努めていきたいと思っています。



社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国ボランティア・市民活動振興センター センター長
高橋良太氏

被災地の現場を知る講師



PBVは、日本全国・世界各地で災害支援活動を行なってきました。研修・トレーニングを担当する講師陣は全員、被災地での、リーダーやコーディネーター経験者です。

これまでの研修実績

受講人数: 51,077人 / 実施回数: 1,306回 (2011年～2024年4月現在)

研修実施 団体・企業一例 ※一部抜粋

- 全国社会福祉協議会
- 北海道社会福祉協議会
- 青森県社会福祉協議会
- 東京都社会福祉協議会
- 徳島県社会福祉協議会
- 大分県社会福祉協議会
- 石巻市社会福祉協議会
- 亀山市社会福祉協議会
- 大阪市社会福祉協議会
- 青森県
- 群馬県
- 北海道浦幌町
- 東京都新宿区
- 静岡県静岡市
- 岡山県倉敷市
- 福岡県福岡市
- 立教大学
- 関西大学
- 別府大学
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 株式会社モンベル
- グーグル合同会社
- 日本IBM
- 日本財団
- 日本赤十字社

研修依頼者の声

[PBV 研修依頼者の声](#)

研修実績一覧

[PBV 講演・イベント](#)

多様な支援団体との情報交換やノウハウの共有

PBVでは独自の支援ノウハウ以外にも、平時から様々なネットワークを通じて知見を共有し、より良い被災者支援や防災教育の取り組みに活かしています。

加盟ネットワーク名 ※一部抜粋

- 国連防災機関(UNDRR)
- 国際協力NGOセンター(JANIC)
- NGO安全管理イニシアティブ(JaNISS)
- 支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク(JQAN)
- 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
- ジャパン・プラットフォーム(JPF)
- 日本NPOセンター
- 震災がつなぐ全国ネットワーク
- 防災・減災日本CSOネットワーク(JCC-DRR)
- 災害協働サポート東京(CS-Tokyo)
- おおさか災害支援ネットワーク(OSN)
- みんなの炊き出し研究所

持続可能な開発目標 SDGsを推進しています!



PBVは、国連で採択された2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」を推進しています。

SDGsは、第3回国連防災世界会議(2015年/仙台)で合意した「仙台防災枠組」とも深く関係しており、PBVは防災・減災分野を中心に17の目標の実現に貢献します。

人道支援の最低基準「スフィア・スタンダード」



「スフィア・スタンダード」や「Core Humanitarian Standard(CHS)」は、人道支援の現場

において支援者が参照する国際基準です。PBVは、被災地の現場でこれらの基準を遵守して活動するほか、日本のNPO・NGOと協力し国内での普及活動にも取り組んでいます。

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク



全国災害ボランティア支援団体ネットワーク

(JVOAD)は、被災地における支援のめれ・むらを防ぎ、地域のニーズに合った活動を促進するための情報集約、連携調整に取り組んでいます。PBVは、正会員団体として設立当初からJVOADに参画しています。

避難所の運営研修

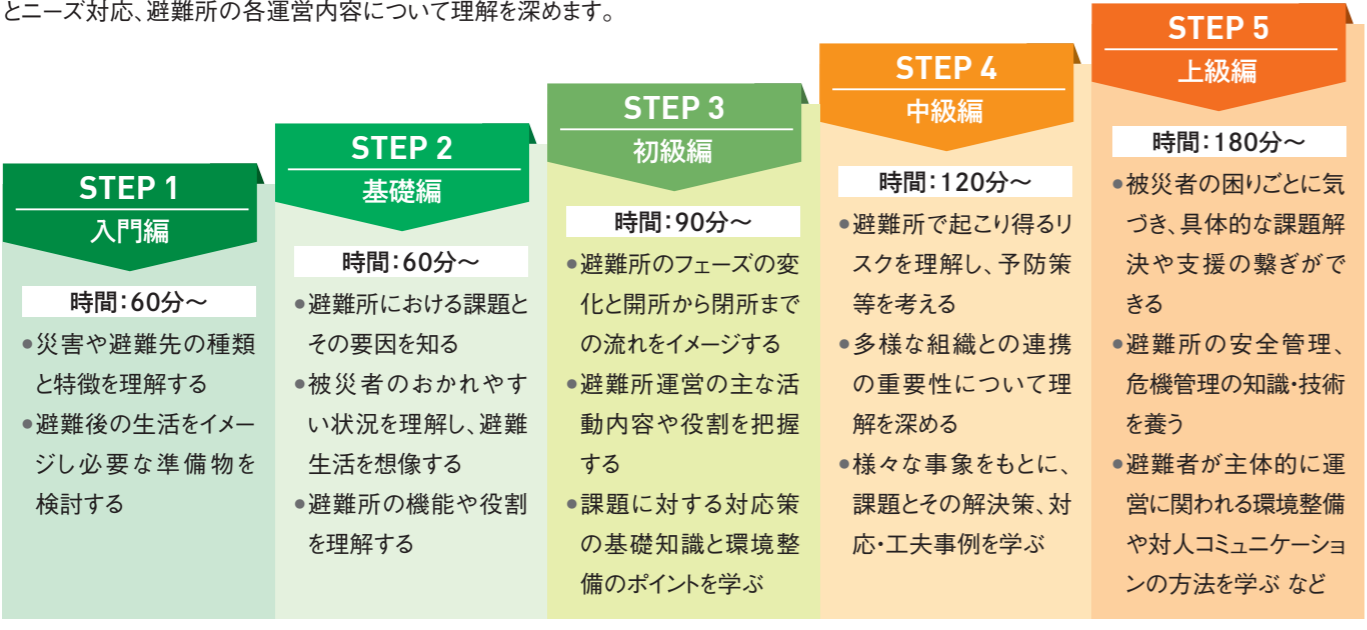
命・生活・尊厳を守る。

ひと口に「避難所」と言っても、行政が指定する施設や自主的な避難先など、その種類は様々です。大きな災害になれば、避難所は何か月もの間生活を続ける「暮らし」の空間になります。しかし、残念ながら過去の被災地では避難生活環境などに起因する心身の健康被害や災害から助かった命が亡くなってしまったという災害関連死も起こっています。被災者の命と生活、尊厳を守るため、中長期での避難所の運営と環境整備のポイントを学びます。実際の被災地での事例を取り入れた座学やグループディスカッション・体験型シミュレーション訓練などの具体的で実行性のあるプログラムを実施します。



- 対象** 避難所運営に関わる自治体職員／地縁組織／住民、ボランティア／施設管理者 など
- 養成する人物像のイメージ** 人道的な被災者支援をもとに、中長期における避難所の運営、生活環境の整備・改善ができる

避難所の機能や避難生活における基礎知識と発生し得るリスクを理解し、対策や実践ポイントを学びます。また、事例をもとに、多様な被災者への配慮とニーズ対応、避難所の各運営内容について理解を深めます。



- 各運営の役割やテーマ別研修 時間：60分～**
- 各運営者の役割やテーマごとの基礎知識、課題や解決策・工夫事例を学ぶ
 - 各専門分野の幅広い知識・スキルを身につける (例) 物資、食事、トイレ、寝床・レイアウト、受付、感染症対策、要配慮者、被災者心理 など

ここがポイント!

- ✓ 105ヶ所以上にのぼる避難所支援の経験と事例を紹介
- ✓ 避難所の全体像や発災直後から閉所までの流れを体系的に学べる
- ✓ 事例をもとに、運営者の役割やテーマごとの課題と対応策を学べる
- ✓ コロナ禍における避難所運営と感染症対策のノウハウ提供

被災地の声 /

熊本地震の避難所では、たくさんの課題がありました。東北でも支援経験があるPBVによる長期で継続的なサポートに、住民も心が癒され、前向きになれたと思います。
(熊本県益城町役場職員)

実践的な避難所運営者の育成

これまで国内の避難所運営訓練は、避難所を開設し設置する訓練が主でした。しかし、実際には開設後の運営や被災者の健康被害を予防するために生活環境を整えていくことが必要になります。特に

大規模災害では、避難生活が数か月にも及ぶため、中長期的な避難所運営を視野に学んでいくことが重要です。避難所の運営主体となる地域住民や行政職員にむけた研修を実施しています。

自治体職員に向けた避難所研修

PBVでは、災害対応経験のある被災地の自治体職員にむけて、「避難所の運営に関する困難さを調査するアンケート」を実施しました。そこからは、被災者とのコミュニケーション、災害対策本部との意思疎通、避難所運営に関するノウハウや知識不足など、多くの課題が見えてきました。被災した自治体職員は、懸命に災害対応に取り組みながらも、8割以上の方が困難さを抱えていました。事前の研修の必要性を訴える声も多く寄せられ、自治体職員向けの研修にも取り組んでいます。
※本調査・研修等は、2020年度休眠預金活用事業の助成金を受けて実施しています。

避難生活支援リーダー・サポーター研修

避難所運営は、地縁組織やボランティアの協力を得て、避難者が主体的に運営に関わることが望ましいとされています。一方で、避難生活の長期化に伴うさまざまな課題に対する対応には、経験やスキルが必要となってきます。そこで、内閣府防災担当では、「災害関連死・ゼロ」の実現を目指して、避難生活環境向上のために地域のボランティア人材の育成・発掘を図る研修を開始しました。
PBVでは、これまでの避難所運営経験から、内閣府がすすめる「避難生活支援リーダー・サポーター研修」のカリキュラム作成、研修の講師・監修として参画し、プログラム作りに協力してきました。

ここがポイント!

- ✓ 多様な被災者の理解とその配慮を学ぶ
- ✓ 避難所の課題と生活環境の整備を、避難所の再現をもとに模擬体験を通じてリアルに学ぶ
- ✓ 対人コミュニケーションの演習を通して、被災者との接し方や考え方、姿勢やスキルを学ぶ
- ✓ 運営の担い手と連携・協働の必要性を学び、イメージする

メッセージ
内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官(普及啓発・連携担当) 村上威夫氏

避難生活が長期化すると、災害関連死の増加が懸念されます。内閣府では、「災害関連死・ゼロ」を目指し、災害ボランティア活動に意欲のある地域の方が、避難所の環境改善等の知識・ノウハウを身につけることができる「避難生活支援リーダー／サポーター研修」のプログラムを作成しました。現在は、一部の地方公共団体でモデル的に実施している本研修ですが、今後は、全国各地の地方公共団体等でこの研修が実施され、避難生活支援の担い手となる人材が各地に増えていくことを期待しています。

災害VC運営者養成研修

関係者の共通認識から始まる災害VC運営

災害ボランティアセンター(災害VC)が被災者の生活再建に向けて機能するには「人材」が何より重要です。災害時、刻一刻と変化する状況の中、必要な取り組みを検討し実行すること。またそれに向けた平時には、「誰のための・何のための取り組みなのか」という関係者の共通認識が欠かせません。その上で具体的な動きの検討や技術習得のために、研修会や訓練を行うことで、それぞれの地域にあった実践的な取り組みに近づいていきます。PBVでは全社協主催の災害VC運営者研修で講師・企画委員として関わった経験や、各地での被災地支援の経験から課題の具体的な事例をもとにした研修内容を提供しています。



対象 社協職員/災害VCと連携する行政やNPO/災害VC運営を手伝う住民ボランティア など

養成する人物像のイメージ 災害VCに対する共通理解を持って、災害時の運営や平時の取り組みに関わる運営者

災害VCを運営するにあたっての共通認識作り、具体的な体制を検討するための運営や対応事例の提供、設置運営訓練の講評などを、順を追って取り組みます。それらは地域事情に合わせた実践的な取り組みを検討する素地となります。

STEP 1
入門編

時間:90分～

災害発生時に被災者が置かれる状況や抱える課題、それに対する支援の基本的な仕組みを知り、被災者支援の重要性を確認する。



STEP 2
基礎編

時間:90分～

災害VCの基本的な役割や機能、運営の3原則と言われる「被災者中心」「地元主体」「協働」の心構えを確認し、災害VCのイメージをすり合わせる。



STEP 3
運営準備

時間:90分～

災害VC運営に必要な要素や取り組み事例の紹介を通して、災害VCの運営イメージを広げる。またそこから平時にどのような取り組みが必要かを考える。



STEP 4
机上訓練

時間:4時間前後

「災害VCマッチングシミュレーションゲーム」を使用して、災害ボランティアの受入やトラブルシューティング、どのような支援活動が必要なのかなどのシミュレーションを行う。



STEP 5
設置運営訓練

災害VCを実際に設置し、各担当の役割や具体的な動きを把握する。演習体験を通じた気づきや新たな課題、今後の取り組みなどについて検討する。

※設置運営訓練に関する企画代行は行っておりません。実施までのアドバイスや当日訓練の講評等を担当いたします。



ここがポイント!

- 被災地での災害VC運営支援は30ヶ所以上。
- 立ち上げから閉所まで一貫通で支援を実施し、フェーズによる取り組みの変化も紹介。
- 全社協が主催する災害VC運営者研修に講師/企画委員として参加。

受講者の感想 /

災害VCの本質的な役割について学び、被災者の為になる活動を心がけようと思った。思っていた以上に様々なことを想像して支援に当たる必要があると分かった。さらに実際の被災地での経験談や事例を学びたいと思った。
(北海道在住/社協職員)

「災害VCマッチングシミュレーションゲーム」キット

災害VC運営者研修のSTEP4で使用する、研修キットを販売中です。災害VCの運営において、なかなか学ぶ機会のない困りごと(ニーズ)の把握やボランティアを適材適所につなぐマッチングについて、カードゲームで楽しみながら学びます。実際に起きうる様々なニーズに触れ、また解説事例集を通して、マッチングへの理解を深めることができます。


4グループまで対応 (最大人数24人) **26,000円(税込)**
※対応人数に応じたセットをご用意しています。



詳しくはこちら ▶ pbv.or.jp/msg/

MSG 災害ボランティアセンター

実際の被災地で取り組んだ災害VCの運営をまとめた、事例集も公開中!



災害ボランティア養成研修

災害時に活躍する支援の担い手を育てる

ボランティアの力を最大限に活かし被災者の困りごとを解決するためには、ボランティア活動に参加する人を増やし、また円滑な活動を行うためのノウハウを持った人材を育てることが求められます。本研修は、被災者に寄り添った支援活動ができるボランティアやチームリーダーを育成するための講座です。支援の現場で起こる様々な課題を理解し、活動中に行うべき具体的な活動ノウハウが身に付く内容を過去の事例紹介やワークショップなどを通じて提供しています。

対象 災害時の支援活動に関心のある地域住民/災害時に活動するボランティア団体などのメンバー

養成する人物像のイメージ 安全で被災者に寄り添った支援活動が行えるボランティア



STEP 1
入門編

時間:60分～

災害ボランティアの役割を理解し、活動の種類や参加方法を学ぶ。災害VCでの1日の活動の流れを把握する。

STEP 2
基礎編

時間:90分～

災害ボランティア活動を行う上で必要な心構えを理解し、活動中に安全で被災者に寄り添った活動を行うためのポイントを確認する。

STEP 3
チームリーダー編

時間:60分～

災害VCで活動する災害ボランティアのチームリーダーとして求められる役割を理解し、チームとして円滑な活動を行うためのノウハウを学ぶ。



初心者にも分かりやすい解説ブックレット「災害ボランティア入門」(2019年/合同出版)を販売しています。研修の教材としても活用できます。

ここがポイント!

- これまでのべ11万人以上のボランティアをコーディネート。その経験をもとに様々な支援現場の事例を紹介。
- 講義だけでなく、参加者同士でボランティア活動中に起こり得る課題や被災者への支援内容について検討するケーススタディなど、ワークショップも実施可能。

受講者の感想 /

被災地に行く前で、様々なことを想像しながら受講しました。現場の具体例も多く内容が充実していました。自分にもできることはあると思えました。
(群馬県在住/公務員)

わが家の災害対応ワークショップ

多発する水害。事前の避難はいつどこへ？

「まさか自分が被災するなんて考えてなかった…こんな事なら備えておけばよかった」ある被災者の声です。近年頻発する水害、起きる前の限られた時間の中でどのように安全確保をすればよいのでしょうか？

水害編では、水害が起こりうる状況での自分と家族の適切な避難をワークショップ形式で学びます。大雨の前兆から水害発生までの「避難イメージシート」の記入を通して、水害発生前に家族がいつどこでどのように避難するかを考えます。

●時間:120分～ ●レベル:初級

- 内容**
- ① 講義
家族・被害想定・避難を知る
 - ② 記入式のワーク
災害の恐れのある大雨からの避難をイメージする
 - ③ 解説
被災後の取るべき行動を知る

対象
対象年齢:15歳以上
何を準備すればいいかわからない人
防災・減災について基本から学びたい人



水害編

受講者の感想 /

自宅が浸水が想定される場所で、大雨の度に不安な思いをしてきました。ワークを通して、家族が取るべき行動を可視化できました。また家族が離ればなれの状態でどのように避難するのか、といった視点も大切だとおもいました。
(茨城県在住/会社員)

地震発生からの3日間、あなたはどのよう行動しますか？

地震は発生の予測が困難で、その分事前の対策が不可欠です。一方で「防災の知識はあるけれど、どのように実践すればよいかかわからない」といった声をよく耳にします。そもそも災害への対策は各々の家庭によって変わるものです。

家族のライフスタイルや自宅の状況、地域の特性に合わせて、被災した状況をイメージします。具体的に「わが家」で役に立つ災害対応や備えを、ワークシートの記入や参加者同士で意見を交換しながら深めていきます。「避難場所は?」「家族との連絡手段は?」「自宅で何を備蓄すればいい?」など、災害後の対応や備えについても解説します。

●時間:90分～ ●レベル:初級

- 内容**
- ① 講義と記入式ワーク
家族・自宅・地域を知る
 - ② 記入式のワーク
災害発生から72時間をイメージする
 - ③ 解説
災害への備えと対応を考える

対象
対象年齢:15歳以上
何を準備すればいいかわからない人
防災・減災について基本から学びたい人



地震編

受講者の感想 /

授業があった日の夜、ご飯中に家族で防災について話しました。実際に次の日に地震(震度4)がありましたが、昨日話し合ったせいか落ち着いて行動ができました。
(宮城県在住/中学生)



「わが家の災害対応ワークショップ」地震編にはオリジナルのワークブックがあり、販売もしております。

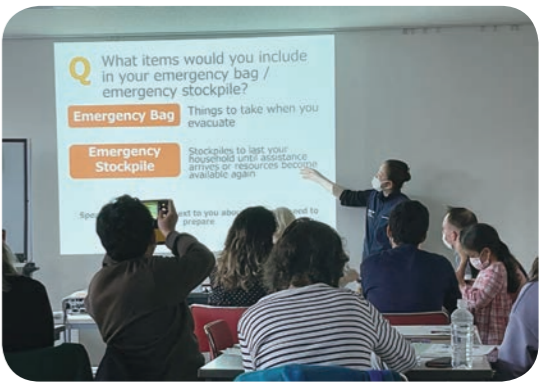
地震対策を英語とやさしい日本語で学ぶ

地震編では、日本語を母語としない方向けに「英語」「やさしい日本語」での研修も行っています。

地震が少ない国からの渡航者や移住者は、地震を学ぶ機会の少なさから、発災時どうすればよいかかわからないといった不安を抱えています。研修では今まで特に関心が高かった内容、家庭でのリスクの防止・軽減方法、避難手順、家庭での備蓄品など、災害への備えの基本的な内容も盛り込まれています。



わが家の災害対応ワークショップ英語版も販売中です。



災害に備える地域力講座

災害に強い地域づくり研修

私たちの命と生活を守るためには、「自助」「公助」と合わせて地域の助け合いによる「共助」が不可欠です。いざというときに支え合える関係をつくるために、平時からできることは何なのか、各地の取組み事例をヒントに、自分の住む地域で起こりうる課題や参加者自身が行える取組みについて座学やワークショップの形式で学びます。

●時間:2.5~3時間 ●レベル:初級

内容
事前の打ち合わせにて、地域に合わせた研修内容をご提案します。

対象
地域の活動を担う住民
町内会・自治会の自主防災組織
地域の青少年委員、民生委員など



支援を活かす地域力ワークショップ

被災経験から学ぶ地域防災。各地の被災地で被災者が直面した事例をもとに、「災害時にはどんな支援の仕組みがある?」「被災者を支援するために必要な地域のつながりとは?」など、近隣での支え合いと外部支援の受け止め方を学びます。後半は、平時に取り組むべき地域での顔の見える関係づくりを考えます。

●時間:2.5~3時間 ●レベル:初級

- 内容**
- ① 講義 災害対応の流れと役割分担
 - ② 設問と解説
「ひと・もの・かね・情報」の活用
 - ③ グループワーク
災害時役立つ地域資源とは?

対象
地域の活動を担う住民
町内会・自治会の自主防災組織
地域の青少年委員、民生委員など



教材には、東日本大震災の宮城県石巻市での住民からの教訓が盛り込まれています。

実施時間や内容は、地域の実情に合わせてカスタマイズします。お気軽にご相談ください。

受講者の感想 /

過去に聞いた被災地の「点」の話が、一連の流れでつながり有意義だった。自主防災組織としての今後の取り組みの参考になりました。資料もわかりやすかった。
(香川県在住/自主防災組織)



その他テーマ別講演

20種類以上の活動経験をもとに



残念ながら、毎年のように発生する災害。

PBVはこれまで78以上の被災地域で支援活動を行ってきましたが、災害の種類や被災地の状況によって支援を選択します。

被災者への丁寧なニーズ調査をもとに、その時に最も必要とされて

いることに対応した活動を行い、その種類は、食の支援や家屋の応急・保全対応、サロン活動など多岐にわたります。

これまでPBVが実施した様々な活動のノウハウや必要な知識を講演にてお伝えします。

屋根の応急対応(防水シート張り)

台風や地震などの被災地では、家屋の屋根部分に被害が生じることがあります。被災した住民の方々からは家屋の修理が入るまでの間、雨漏りを防止してほしいというニーズがあがります。応急対応として行われる防水シート張りの支援活動は、高所での

危険が伴う作業のため転落リスクを防ぎながら、安全にかつ効果的にシートを設置していく必要があります。

講演では、高所での安全管理の方法や様々な工法を学べる内容を提供しています。



炊き出し(食事支援)

あたたかくバランスのとれた食事は、被災し傷ついた心身を癒し、回復させていきます。しかし、被災地では菓子パンやおにぎり、カップラーメンなど偏りのある食事が続くことにより、カロリー過多、栄養不足による体調不良、食欲不振など健康被害が起こることがあります。

そのような課題に対応できる、食の支援を担える人材が今求められています。準備から始まり、炊き出し場所の選定、調整、衛生管理や調理、配食方法など。PBVでは、炊き出しなど各地で行った経験をもとに、食の支援における事例やノウハウをお伝えします。



浸水家屋の保全(床・壁はがし)

水害によって家屋が浸水した際、床や壁に水分が含まれた状態で放置してしまうと、家屋が傷んでいき、カビの発生などによって悪臭や健康被害が生じます。住宅の再建に向けて、浸水した壁や床をはがし、断熱材を取り除いたり泥を除去する工程が発生し

ます。しかし、やみくもにはがすと、家屋の他の部分を傷めたり、安全管理上の問題もでてきます。

講演では、床や壁をはがし、家屋を傷めない方法や適切な道具の選定、その後の乾燥や消毒について手順にそってお伝えします。



その他の活動紹介

自治体の行政支援や物資支援、仮設住宅支援、コミュニティ形成サポート、支援調整などの活動も行っています。個々の活動についてだけでなく、日本の災害対応の流れや官民連携の方法など幅広いテーマで講演を行っています。

特に石川県能登半島地震など直近の災害における活動報告や被災地の課題などの講演依頼を承ってきました。フォーラムやシンポジウムに登壇など様々な形式で災害支援についてお伝えしています。



現場で役立つ事例集



「被災家屋への対応事例
～屋根の対処編～」
(2021/JVOAD)

被災家屋の応急対応を行う支援者に向けて、シート張りの工法や安全管理の概要をまとめた事例集を作成・公開しています。



「災害時の炊き出しに関わる課題・解決事例集～災害時の避難生活の「食」にまつわる課題 36事例～」
(2022/みんなの炊き出し研究所)

災害発生直後の炊き出し実施時に被災地で起こる、住民と支援者による課題と支援のエピソードをまとめた冊子を連携団体とともに作成しました。



私も推薦します。



株式会社モンベル
代表取締役会長
辰野勇さん

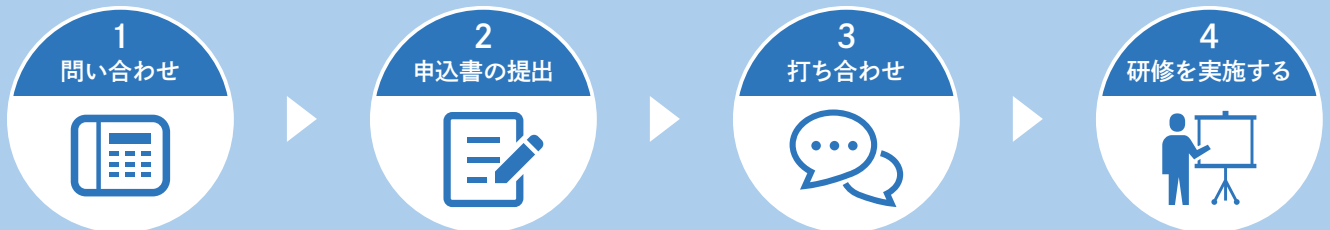
ピースボートとの出会いは2005年に発生したパキスタン地震での支援活動でした。私自身、アウトドアのグッズやノウハウが災害の現場でも活かせると思い、その後も新潟中越沖地震や東日本大震災などで支援活動に協力させていただきました。支援を行なう現場で感じたのは、“日ごろからの準備”とともに、その備えたものを使いこなせる“想像力と知恵”を身につける必要があるということ。残念ながら、災害は防ぐことができません。一人ひとりが備えることで、災害による被害を少なくしたいと思っています。



関西大学社会安全学部社会安全研究科
准教授
菅磨志保さん

「自発性を組織化する」とは矛盾した課題だ。活動効率を高め、組織化を追究しようとするれば、ボランティアの個性は活かし難く、自発性も萎えてしまう。阪神・淡路大震災で「組織化されたボランティア」が被災地の役に立つことを見せてくれたピースボート。東日本大震災でも、大勢のボランティアを被災地につなぎ注目された。そんなPBVのトレーニングでは、個々のボランティアの意欲と力を引き出しながら、被災地の役に立つ活動を展開していく秘訣が学べる。そのノウハウは、被災地での活動だけでなく、日常の地域課題を考えていく上でも様々なヒントと提供してくれると思う。

講師派遣のご依頼の流れ



1 問い合わせ
HPの研修ページをご覧ください、フォームよりお問い合わせください。研修内容や実施時間などの細かなご希望も、お気軽にご相談ください。また、お見積りのご依頼も承っています。

2 申込書の提出
お問い合わせの内容への返答とあわせて『講師等派遣申込書』を送付いたしますので必要事項を記入し返送ください。

3 打ち合わせ
『講師等派遣申込書』の内容を基に、細かな実施内容等に関してご相談にのります。なお、事前の打ち合わせに別途費用はかかりません。

4 研修を実施する
研修は、講師と受講者が会場に集う対面形式またはオンライン形式どちらでも実施が可能です。

講師派遣は、お気軽にご相談ください！

PBVではパンフレット記載の研修をはじめ、各種講演や研修の講師派遣を行っています。対象者に合わせた内容や実施時間のアレンジ、各種アドバイザーも承っております。お気軽に事務局まで、お問合せください。

※講習費は実施時間や内容、派遣講師の人数によって異なります。 ※講師の旅費交通費、教材が必要となる場合には、実費を別途請求させていただきます。

詳しくは

PBV研修



TEL: 03-3363-7967 [11:00~16:00
土日祝定休]

MAIL: training@pbv.or.jp

一般社団法人ピースボート災害支援センター (PBV)
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-2F-A
TEL : 03-3363-7967(11:00~16:00/土日祝定休)



各地での被災地支援や防災減災の取り組みを
こちらで発信しています！



LINE



Facebook



X (Twitter)



Instagram